

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和4年3月定例会

議席番号5番  
宮下孝幸議員

この町のその先の財源確保について

少子高齢化により社会保障費の増大、自治体は元より、国の財政も逼迫する中、新型コロナウイルスの対応が追い打ちをかけ、国家財政の悪化に拍車をかけている昨今。交付金や補助金比率の高い自治体にとり、大変憂慮すべき時代となる事が想定できる。

①今後、国家財政逼迫により、自主財源確保は必須と思うが、では、当町の年度予算に対し、国・県からの優位な交付金や補助金を除いた、町独自の税収は、年度予算に対しておおよそ20%前後と思われるが、間違いはないか。

②町長はよく「入るを量りて出るを為す」と言うが、では、国や県の交付金や補助金比率の高い当町にとって、今後、町独自の「入る」をどの様に量っていくのか。

③自主財源確保には、自ら稼げる町づくりの政策が重要。余りある観光資源を活用し、人集い賑わう町づくり「観光立町」を持って成すべきと考えるが、コロナ禍を除いた当町の過去の観光人口の進捗状況と今後の推移をどの様に予測しているのか。

④観光人口、交流人口増の人集う町、そこには豊富なお金が集まり、そのお金を求めた産業が生まれ、雇用をも発生させる経済循環に期待が持てる。当然、経済循環の先には、町税収増も見込め、財政の安定化に至ると思うが、これらの循環を起こすべく、当町観光資源の最大活用による「観光立町」を、政治生命をかけて具現化していく考えはあるか。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和4年9月定例会

議席番号5番  
宮下孝幸議員

老朽化危険家屋対策について

過去在任中、私は東京都足立区の空き家問題を例にとり、当町空き家、特に老朽化危険家屋の問題について質問をした事がある。

特に、過疎化に歯止めのかからない当町海岸地区においては、日々空き家化し、放置され老朽化した建物が増えてきており、問題は益々深刻化している。

私も、四年間議会を離れていた為、どの程度の対策が取られているか極めて無知な部分もあるので、基本的な事から伺う。

①当時私の質問に対し調査をし、町として該当すると思われる建物をリスト化して、その後の対応を検討するとの答弁が有ったかと思うが、現在でも海岸地区では網掛けのまま放置され、倒壊や二次被害が想定できる、いわゆる危険家屋が存在している。では、空き家リスト策定はどの程度出来ていて、その中で老朽化危険家屋はどのくらいあり、詳細な調査更新は毎年行っているのか答弁を求める。

②避けられない少子高齢化の波により、我が国の人口減少は一段と進み、全国的に老朽化放置家屋、つまりこの危険家屋の問題は深刻さを増していく事は周知の事実である。

国は2015年5月に「空き家対策の推進に関する特別措置法」を施行したが、法で定められた老朽家屋は「特定家屋」として、条例を制定した市町村が家屋指定をし、法に基づき当該自治体が順次対応するとあるが、当町も2019年、つまり平成31年3月議会において、関わる条例が提案され可決されたと聞いているが、では、その条例に沿って抜本的な試案を基に対策を講ずるべきと考えるが町長の所見を伺う。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和4年12月定例会

議席番号5番  
宮下孝幸議員

**買い物難民救済策は**

先般の来年度予算意見交換会でも、複数の議員からこの問題の提起がなされたが、永らく海岸地区の食卓を支えて来た、スーパーたまきやさんの年内廃業の一報。

私は、当時在任中にも過疎化が進む当町に、買い物難民や医療難民の問題の対策は、当町の今後必須課題であると提言してきた。

医療難民策としては、当時私が提案した緊急医療キットがようやく実施され陽の目を見ているが、買い物難民策はいまだ手付かずで今日を迎えている。

**1. 移動販売の活用について**

その手段の一つとして、移動販売を事業としている民間業者を活用し、買い物難民救済を講ずる方法もあると思うが、町長の所見を伺う。

**2. デマンド交通の活用について**

公共交通手段も手薄となっており、移動手段を持たない生活弱者にとって、日々の買い物が困難となる事は、死活問題である。

そこで、現在の地域巡回型のデマンド交通を見直し、これらの問題を解決する方法を模索すべき。

他の自治体では、オンデマンド交通と称し、自治体を超えて、総合病院や大手スーパーなどへの運行もなされている。

当町も、隣接する長岡市などへの運行範囲拡大を希望する町民も多いと聞くが、早急な試案を必要とする本案件に対し、町長はどのような試案の元迅速に対応するのか所見を伺う。